

ガラスの中の眩き

うす青いガラス細工の中に
凍りついた眩きがうずくまる

(私は深い眠りにつく者
この眠りを覚ますことができるのは
ただひとりだけ)

私はそのガラスを磨く
そのひとりが私であれかし、と

ほんのかすかな囁きも聞き漏らすまい
どんな小さな微笑も見逃すまい

お前を目覚めさせる鍵は何？
日の光の当たる角度か
それとも或旋律か
それともお前を包む掌の感触か
それともお前にキスする唇か
それとも愛しんだ年月の長さか
せめてヒントのひとつなりを囁いてくれ

ガラスの中に潜むその眩きを
美しく花開かせることができるならば
ああ、この凍りついたペンも溶けだし
再び走り出すような気がするのだ

私は磨き続ける
ガラスよ溶け去れ
お前の言う
「ただひとり」であれかし、と

(1999.12.26)